

## 善仁寺からのお知らせ

第一回 善仁寺帰敬式が執り行われました

さききめいしき

本年二月五日には善仁寺本堂に於いて、第二回となる帰敬式が執り行われました。仏弟子として生きる誓いとして、生前に法名をいただく式です。



法名 俗名  
釋尼平章 伊藤 章  
釋祥爽 大島 祥市  
(以上2名)

次回帰敬式の希望者を左の通り募集いたします。受式希望の方は当寺院までご予約の上、お越し下さい。希望動機などをお話下さい。

申込み期間

平成二十五年九月一日より十一月末日

帰敬式予定日程

平成二十五年三月～四月

申込み費用

五万円／お一人様

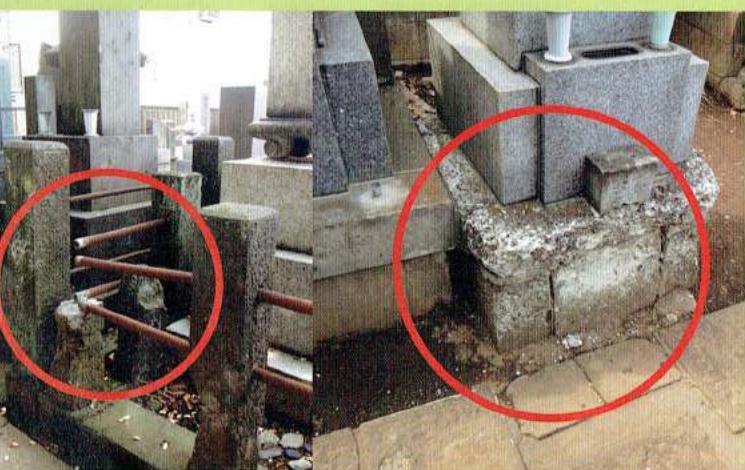
申込み資格

善仁寺同朋会にご参加経験者及び今後も参加意思のある方

善仁寺所属のご門徒及び親類縁者

お墓の修理をしくてください

傾き、破損が著しいお墓を多数見かけます。土台の石や樋石が既に崩れているお墓もあります。倒壊などにより、お隣のお墓を破損したり、参詣者が怪我をしたと



き、お墓の代表者の方が責任を負うことになります。危険な状況であるとみなされのお墓の代表者には随時、修理のお願いをさせていただいております。  
半倒壊などの危険な状態にて長期放置しないよう、お願ひいたします。  
当山出入り石材店数社あります。工事の内容によりご案内しております。  
修理工事ご予定の方は、当寺院へ連絡を必ずしてください。

思えば、この1年くらいは特に忙しく、食事も毎日弁当や外食などで栄養のバランスの悪いような気がしていましたが、積もり積もつて「こういう病気がでてくるのでしょうか。反省されます。  
しかし、初めての入院で友人から励ましを受けたり、遠方よりお見舞に来てくださったり、改めて実家の両親の世話をなったり、普段は何気ない関係がありがたく感じました。留守にお寺の清掃を一生懸命してくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。  
法務などで迷惑をおかけいたしました方々には深くお詫び申しあげます。

合掌

ご用集不後記

## 第二回 善仁寺帰敬式受式希望者募集のご案内

Vol.13

発行人 青山 満  
発行所 東京都文京区小石川4丁目13番19号  
真宗大谷派 石川山善仁寺  
電話 03(3811)4803  
ファックス 03(3811)3295  
メール kbpmp396@ybb.ne.jp  
ホームページ http://zenninji.web.fc2.com

Copyright(C)2012  
Zenninji Association  
All Right Reserved

(前号続き)縁は因と果によって成り立っています。種(因)があるから実(果)があるんです。たとえば種をここに置いておきます。これは永久にこのままなんです。これに何かを加えられて、つまり水であり、太陽であり、だからこそ芽が出てくるわけです。私たちも因縁によって父母の縁によつて私というのちをいただいたんだということですね。ですから帰るのは当たり前です。

この前、あるところでお質問を受けまして、地獄・極楽っていうのはあるんですけどという話なつてしまつたんですよ。あるお医者様がおられまして、「人間は死んだらゴミになる」おっしゃってまして、素晴らしいお医者様だったそうです。

その方に一人のお嬢さんがおられまして、このお嬢様が不治の病に罹ってしまいました。お医者さんですからいろいろ手を尽くしたんでしよう、しかし、どうにもならずに助からないということが分かりました。その気持ちをお嬢さんに伝わりました。要するに「わたしはもうダメなんだな」と…。そのときに思ったのが、「お父さん、わたしが死んだらどこへ行くの」ということでした。

極楽に行けるんですね。確かに。そこで申し上げたいのは、仏教とは何ですか?目的は?字の通り行きますと「仏」の教えですよね。仏の教えとは何かといえば、先ほどいいましたように、必ず私たちは来たもとに帰っていくんだということ。真理を覚ったんですね。宇宙の真理を覚ったと。真理を覚ったんですね。宇宙の真理を覚ったと。では「仏」というのは何だ。目覚めた人です。

目覚めた人を「ブツダ」といいます。

(次ページへ)

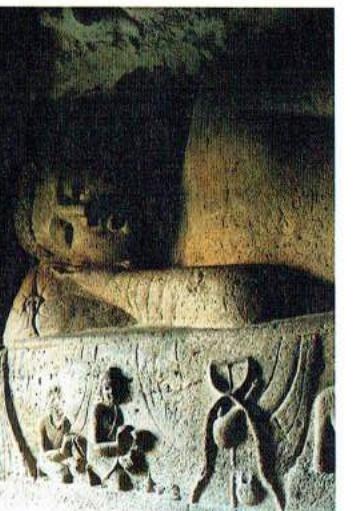
目覚めたのは真理に目覚めたんです。

この目覚めた方が、自分の今までの苦しみをずっと経験して、そして最後にここへ到達しましたよ。私たちには生まれた世界に帰りましょうよと。これが仏教の教えなんです。

ところがお釈迦様は法華經というお經を書かれました。法華經の中に、お釈迦様の予言として、人は全て仏性を有すると。いうなれば人は全て助かるんだと。あります。これを受けまして涅槃經ねはんぎきょうというお經があります。涅槃というのは単なる死ではなく、大きな真理の国に帰ること、涅槃とはニルヴァーナ。意味は煩惱の火が吹き消された世界。ですから一般に言うと音のないような寂靜の世界を涅槃とおさえているんです。

これをお釈迦様のお弟子方は。わが師お釈迦様は涅槃の世界に入られ、大きな國に帰られた、ただの死ではない。だから尊いんだ。こういうふうに言つたんですが、これを私の恩師、金子大榮かなこだいえいという先生は、「涅槃とは完全燃焼だ」。完全に生き尽くした、槃とおさえているんです。

これが涅槃だと、こういうふうに説明してくださりました。70歳で亡くなろうと80歳で亡くなろうと、あるいは不幸にも、もつと若くして亡くなろうとも、一生懸命その人が生きたならば、それこそ完全燃焼なんです。だから若くして亡くなつた方のこととを夭折などといいますが、浄土真宗ではそのような言葉は使いません。20歳で亡くなつてもこの世に縁がなくなりましたけれども、もとの世界に縁ができたんだと、こういうことなんですね。



→ 釈迦涅槃像(インド・アジャンター遺跡)

さて、涅槃經にはこんなことが書かれております。みんなだれもが「仏性」を持っています。みんなだれもが「有仏性」と言います。仏性とは何かということです。つまり仏になる可能性があります、ということです。もう一つのことは、仏になる種をもつていると、いうことです。涅槃經には凡夫が仏性を有すというんです。要するに凡夫というものは私たちです。凡夫といふのはいつでも救われる種を持つているという、仏になれる、そういう性質がありますということです。ところが、これをこのように読みますと、それがどうするのかという問題が出でてくる。もうひとつの読み方。漢文ですので、「悉有仏性」如來常住無有變易」並び方によつて「悉く仏性を有す」と、こういう読み方をしますと「有」が上にくるわけです。しかし、これが受身になりますと「凡夫は如來に藏される」逆になります。凡夫は如來に育まれる。この両者は全く違うことになります。

とは既に私たちは如来に攝取されて  
いる。攝取というのはおさめとするとい  
うことです。如来が私たちを抱え込  
んでいてくださるという。親鸞聖人は  
こちらの考え方です。前者の代表は

ただ、浄土宗には修業がないというわけではなくて念佛という大事な行があるんです。その行は私から称えるのではないんです。私は称えようと思うような純粹な人間ではない。みなさんには、誠に申し訳ありませんが今、ご本尊に向かって「南無阿弥陀仏」と念佛ができますか？ おウチのお仏壇に向かっては出るかもしませんが、ここでは出にくいでしょ。

なぜ、出にくいのか？ 本当に如来を信じ、そのおかげなんだと思えば出るはずなんです。ところが、あやふやで「どうなのかな？」と思う。隣の人気が気になる。だから念佛が出ないんです。こういう聞法の場にいながら念佛が出ないんですよ。悲しいかな。それが煩惱なんです。私たちはそういう煩惱に抱え込まれている。だから修業しよう、修業しようとして禅宗さんではひとつ姿として座禅をする。だけど、今、いろいろ聞いてみますとその修業のためでもないようです。その座禅をすること自体が大切な行なんだといつてあるそうです。

いのかなと思いますが……

ですから浄土宗の教えと禅宗の教えはまるつきり違います。仏教はみんな同じだと思つていらつしやる方が多いと思います。そうではない、ちゃんと分けてあります。

それから、もう一つあります。それが密教みつきょうという教えです。密教というのは、これは秘密の行。人に全部の内容は話さない。ですから、内陣で護摩ごまを焚いたりと、いろんな行をするわけですが、ずっと向こうを向いて一人でやつてゐるでしょ。密教の教えはどちらかといふとこちら側、つまり親鸞聖人と同じ形です、すでに私たちは仏であるという立場をとつています。既に仏である。本当ですか? つていうことになる。

どうするかといえば朝に仏の真似をする、昼に仏の真似をする、夜に仏の真似をすれば仏なんだという理論。吉田兼好の徒然草の中にこういう言葉がありますよね。泥棒の真似をして人のものを盗めばまさに真似たんだと。だといつても泥棒なんだと。



## 座禅(坐禅)の様子

なかなか信じられんところに凡夫の凡夫たる所以があると親鸞は嘆かれたんです。そして共々に煩惱を抱いている私たちではないのかな？　だから共に手を携えながら助け合つて生きていきましょう。これが浄土真宗の教えです。

親鸞聖人の教えは「ただ念佛するものとなつて、まことに目覚め無碍の一道を生きよ」という教え。無碍というのは障りのない一道ということです。家族をもつていつも障りだらけ。その障りを乗り越えていく。大変なことですけども、これは念佛のひとつによつてすごすことができるんだと。

「如來大悲の恩徳を知つて、尊い人生を生きなさい」これが親鸞聖人が私たちに教えてくださった。なかなか難しいことですけれども、それが私たちに与えられた苦しみであります。

その苦しみを乗り越えていく。大切なことではないかな、と思います。

密教は仏の真似をして生きる。毎日朝がきたら仏になつたつもりで一日をすごす。だから悪いことをしちゃいけないし、いろんな制約がありますよね親鸞聖人はそれができない。修業もできないんです。なぜかと言えば、私たちは家族をもつて生きているんですね。親鸞聖人は肉食妻帯じにくじょさいたいであります。家族をもつているということは贋りが非常に多いんです。うるさいでしょ？ 家族つてのは。子供のことと煩わしくなり、家内のことと煩わしくなり。人間信用なんてほとんどで

なかなか信じられんところに凡夫の凡夫たる所以があると親鸞は嘆かれたんです。そして共々に煩惱を抱いている私たちではないのかな？　だから共に手を携えながら助け合つて生きていきましょう。これが浄土真宗の教えです。

親鸞聖人の教えは「ただ念佛するものとなつて、まことに自覺め無碍の一道を生きよ」という教え。無碍というのは障りのない一道ということです。家族をもつていつも障りだらけ。その障りを乗り越えていく。大変なことですけども、これは念佛のひとつによつてすごすことができるんだと。

「如來大悲の恩徳を知つて、尊い人生を生きなさい」これが親鸞聖人が私たちに教えてくださった。なかなか難しことですけれども、それが私たちに与えられた苦しみであります。その苦しみを乗り越えていく。大切なことではないかな、と思います。